



山吹 富邦 議員

### Q 「県道矢野安浦線」及び「県道瀬野呉線」の整備促進を

A 〈町長〉  
道路の強靱化など、今後も県への要望活動を継続し、県道の整備促進に努めていく。

〔Q1〕 町の県道整備促進の具体的な取り組みは。

〔A1〕 矢野安浦線は、昭和54年から「整備促進協議会」を、瀬野呉線は平成12年から「整備促進期成同盟会」を、関係する市町の首長、議長と共に組織し、県に対する要望活動等を継続している。また、用地等に関して、地権者とのパイプ役として調整などを行い、円滑な事業推進に努めている。

〔Q2〕 来年度の広島熊野道路無料化などの影響により、矢野安浦線や瀬野呉線バイパスの今後の整備はどうなるのか。

〔A2〕 令和2年12月の広島熊野道路の無料化により、周辺道路の交通量

増加が懸念される。県にも理解をいただき、災害復旧優先のなか、矢野安浦線の用地交渉などの事務作業を並行して行うことで、川角交差点から呉地区までの整備は、予定どおり来年度末には完了すると伺っている。町内の渋滞解消のため、引き続き、矢野安浦線バイパスの呉地区以降の事業化について要望していく。なお、瀬野呉線バイパスについては、若干の遅れが出るものと考えている。

〔Q3〕 広島熊野道路とつながる東部流通団地の渋滞対策である、海田大橋付近のオンランプ整備状況は。

〔A3〕 一時中断していた工事も現在再開しており、早期に供用していただくことになっている。



中島 数宜 議員

### Q 平谷交差点横断歩道の復元を

A 〈町長〉  
熊野トンネル無料化後、交通量を検証し、県と協議する。

〔Q1〕 平谷交差点改良工事で横断歩道が撤去された。なぜ撤去したのか。

〔A1〕 交通渋滞対策として撤去した。

〔Q2〕 横断歩道撤去後、交通死亡事故、未遂が発生した。現在では交通量も落ち着いている。危険な交差点は一刻も早く解消すべきではないか。

〔A2〕 熊野トンネル無料化後、交通の集中が予想されているため、現状のままとしたいと県から伺っている。

〔Q3〕 緊急避難的に実施されたものと認識している。今後の計画を考慮してまで撤去する余裕はなかったと思うが。

〔A3〕 矢野方面に向かっての左折矢印信号を設置したため、車両と歩行者の衝突事故の防止対策として、実施されたと伺っている。

〔Q4〕 歩行車の安全を守る目的で復元が困難なら地下道、歩道橋の設置を県に再要請を願う。

〔A4〕 熊野トンネル無料化後の交通量の状況を検証し、県と協議を重ねていく。



▲横断歩道が撤去された平谷交差点

### 生活環境

### Q 〈水原 耕一 議員〉 町内一斉清掃での危険な川掃除の見直しは

A 〈町長〉  
公衆衛生推進協議会に対し提言し、協議を行う。

〔Q1〕 町内一斉清掃に対して傷害保険をかけているが、危険な作業だと認識しているという事か。

〔A1〕 万が一に備えて加入している。危険な作業の容認ではない。

〔Q2〕 過去3年間の事故の詳細を聞きたい。

〔A2〕 平成28年度は転倒し顔を強打された方、針金が足に突き刺さった方、かまで手を切った方がいた。平成29年度は足を滑らせて擦傷された方、かまで手を切った方がいた。平成30年度は豪雨災害により実施していない。

〔Q3〕 高齢化が進む中、町内一斉清掃は、普段生活している家の付近で

よい。遠くの川まで行かなくてよいのでは。

〔A3〕 高齢者の負担が軽減できるような清掃を自治会のほうへ、お願いしていく。

〔Q4〕 川の底に土砂が堆積し、その上に草が生い茂っている。災害の備えにもなる浚渫を、早めに行ってもらいたい。

〔A4〕 引き続き、県への働きかけをしていく。

〔Q5〕 町内一斉清掃は、コミュニティの場でもある。危険な事はせず残った箇所は、町のほうで出来ないか。

〔A5〕 町での対応は難しいが、無理のない清掃をお願いしていく。

### 安心安全

### Q 「熊野町防災の日を定める条例」に基づく事業計画等は

A 〈危機管理監〉  
この条例の制定によって、継続的な住民の防災意識の醸成を図る取り組みをさらに推進していく。

〔Q1〕 本年度の取り組みとして、町は、児童たちが復興のメッセージや絵を描いた葉書を町内の各世帯に配布するようだが、火災保険を取り扱う県民共済の広告入りのものを配布するのは不細工ではないか。どのような効果を期待しているのか。

〔A1〕 子どもからのメッセージであるため、例えば、高齢者などがもらえば元気がつくものと考えている。また、復旧・復興に対しての住民の意識の向上も図られると考えている。

〔Q2〕 民間団体や住民が自主的・主体的に行う防災・減災への取り組みについて、町はバックアップを考えているのか。

〔A2〕 今後どのような支援ができるか検討する。

〔Q3〕 本年は写真展・啓発動画を上映する予定ということだが、昨年の災害の記録映像を作成し、その体験を後世に継承してもらいたい。それは、小・中学校での防災教育にも活用できると思うが。

〔A3〕 町のほうには、動画はあまり残っていない。今後、住民に動画の提供を呼びかけていきたいと考えている。また、映像により、当時のトラウマがよみがえる子どももいるので、中長期的な取り組みとし、まずは被災史等を作っていきたいと考えている。



尺田 耕平 議員

### Q 一般質問

A 一般質問

一般質問

一般質問